

河川砂防技術研究開発公募 地域課題分野（砂防）
平成 31 年度採択テーマ
事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	総合 評価
土石流発生域の地形的特徴を考慮した土砂生産モデルの構築 (研究期間：H31 年度～R2 年度)	宮崎大学 准教授 篠原 慶規	A
<p><研究概要></p> <p>雲仙岳噴火による新規火山堆積物で覆われた水無川流域の土石流発生域（炭酸谷，極楽谷）を対象とし，インターバルカメラと UAV（ドローン）等を用いて，地形変化及び水文条件の変化をモニタリングし，過去の地形変化データも併せてガリー内の土砂動態を明らかにすることで，土石流によって流出する土砂生産量を予測するモデルを構築することを目的とする。</p>		
<p><事後評価コメント></p> <p>本研究では，インターバルカメラと UAV 等の技術を用いて獲得したデータに基づき，2 年間の 5 時期に渡る空間情報データを解析することで，長期的な土砂生産量を予測することができる新たなモデルを構築している。また，地中レーダーについては新技術であり，今後，他の場所でも適用できる可能性がある。</p> <p>当該流域の今後の砂防対策にとって，経年的な土砂流出量とその評価過程が示されていることから，さらなる成果の蓄積が期待できるほか，本成果に流域の経年変化を加味することによって，より精度の高い長期的土砂生産量を推定することが期待できる。</p> <p>今後は，流域の土砂生産のポテンシャルが年々変化していく要因を明らかにすることで，最終的に日本全体の活火山砂防にも適用できるように，土石流発生域の地形的特徴を考慮した普遍的な土砂生産モデルとなることが望ましい。</p>		

※評価基準

- A：研究目的は達成され、十分な研究成果があった
- B：研究目的は概ね達成され、研究成果があった
- C：一定の研究成果があった
- D：研究成果があったとは言い難い